

藤井 栄治

高6期

元阪神タイガース等プロ野球選手・コーチ・監督



百周年・百雑碎

登美丘高校に入学したとき、野球部員は7・8人やった。柔道部に入ろうと思ったんや。でも中学の先輩に「野球部に入れ」と言われ入部した。これで人生が決まったかもしれん。最初の試合はコールド負け。だけど3年生の時、優勝候補筆頭の明星高校に勝利した。満塁で二塁打を打って、相手を抑えた。登美丘の街が盛り上がったなあ。いい思い出や。その年に南海ホークスがスカウトに来たが、練習の野村克也さんの打球を見て「これはいかん」と思い、関大に進んだ。4年生に村山実さんがいてその投球を見て、自分は打者やと思ったもんや。その後阪神・太平洋クラブ・阪急で選手、西武・近鉄・阪神で指導者の道を歩んだが、人生、全く悔いはない。

登美丘の後輩に伝えることがあるとすれば2つ。一つは実は阪急時代に学んだ「プロ意識」 福本、加藤、山田といった一流の選手が、前日にどんな体調でも試合前に体にサランラップを巻いて汗を出して試合に最高の体調で臨んでくる。試合に対する準備・気迫が違った。もう一つは座右の銘でもある「百雑碎」、禅宗の言葉。煩惱や雑念を一切捨てて無の境地を目指す。ずっとそれを心がけていた。一生懸命努力、覚悟を持って勝負に挑む。だけど、いざ勝負の時は、今までのことはきれいに捨て去って「無の境地」で事にあたる。登美丘は 100 周年という事だが、皆さんの人生も 100 年。「百雑碎」の境地で悔いのない人生を歩んでください。100 周年、おめでとうございます。

■プロフィール

1958 年 登美丘高校卒業

同 年 関西大学入学 関西6大学リーグでは3度の優勝に貢献、4年次には首位打者。

1962 年 阪神タイガース入団 開幕戦からレギュラーとして活躍。1962年・64年のリーグ優勝に貢献、特に前東京オリンピックの年の1964年、南海との日本シリーズではジョー・スタンカから2本塁打を放つ。主にクリーンナップとして活躍したが、外野守備にも優れ、セ・リーグの外野手最多連続守備機会無失策記録の保持者でもある(2014年に楽天の聖澤諒に更新されるまでのNPB記録) 12年の阪神タイガース在籍の後、太平洋クラブライオンズ・阪急ブレーブスに移籍。1978年に引退。

選手通算成績

「1650試合出場・1344安打・73本塁打・ベストナイン(1963年)オールスターゲーム出場3回」

1979 年 現役引退後は、西武ライオンズ・近鉄バファローズでコーチ、阪神タイガースでコーチ・二軍監督を歴任。後評論家・解説者を務める。